

アメリカンフットボールの北海道学生選手権は6日、札幌市円山陸上競技場ほかで第7節の1部2試合、2部1試合を行った。甲子園ボウルにつながる1部リーグは北海道大が札幌学院大に69-6で快勝し、北星学園大は68-7で札幌大を下した。この結果、この日試合の無かった北海学園大と北海道大が4連勝で首位に並び、次節の直接対決で優勝を争うことになった。

北海道大は第1Q、QB茨木大輔（1年、兵庫・六甲学院高）がWR黒田勇輝（2年、富山中部高）へTDパスを決めて先制すると、第2Qにも2本のTDパスを放つなどで加点。後半もエースRB荒山尠（4年、東京・麻布高）の2TDランなどでリードを広げた。札幌学院大は第4Q、パントフェイクからのWR中田大夢（4年、札幌龍谷高）のTDランで意地を見せた。

北海道大の村井公寿監督は「オフェンスの調子が良く、パスも普通にいけている。北海道リーグ優勝は通過点だが、次週の北海学園大戦は自分たちのやりたいことを、しっかりとやる」と優勝に向けて手ごたえ十分。主将のLB百瀬皓太（4年、兵庫・報徳学園高）は「札幌学院大のスペシャルプレーで失点したが、インターセプトやQBサックもあった。北海学園大戦も自信をもってプレーしたい」と、次週の大一番に向けて意気込んだ。

北星学園大はQB二階堂真登（3年、室蘭栄高）の4TDパスとRB川上健太（4年、北星学園大付高）の3TDランなどで快勝した。札幌大はRB清水萌留（2年、北海高）のインターセプトリターンTDで一矢報いた。

北星学園大の山下友一監督は「優勝を目標に臨んだリーグ戦だった。2連敗スタートしたが、残り試合は勝ち切りたい」と勝ち越しに意欲を見せた。QB2年目ながら191ヤードを投げ、4TDパスを決めた二階堂は「練習通りのパスを決められた。前節の帯広畜産大戦では波に乗り切れなかったが、今日は前半から調子よくできた」と笑顔を見せた。

第8節は13日、札幌市円山陸上競技場で1部の北海学園大-北海道大（午後1時）と2部の室蘭工大-東京農大（午前10時）を行う。両試合ともポテトボウルの冠試合で、それぞれ1、2部の優勝決定戦になる。

（北海道学生連盟広報委員・塚田博）